

保育理念 (事業運営方針)		「神さまから恵を受けて、共に生き、一人ひとりの子どもを生かす保育」													
保育方針		1. のびのびとした、子どもらしい子どもに育てる。 2. 積極性と協調性を兼ね備え、自分を愛し他人も愛せる子どもに育てる。 3. 子ども一人ひとりの個性を尊重し、その子のもっている素質と可能性を正しく伸ばしていく。 4. 人の気持ちを尊重し、国際性を身につけ、心身共に成長した子どもに育てる。 5. 物を大切に、創造性の豊かな子どもに育てる。				保育目標		自然の中で生きている私たち、生かされている私たち、豊かな環境、豊かな恵みを受けて共に生きている、生かされている事を遊びを通して気づき、気づかせ健全な心身の発達を図る。							
★発達過程とクラスの相関性		★基本的社会的責任 ・適切な施設として家庭や地域に対し、保育園の役割を果たす ・人権尊重（児童福祉法） ・地域交流（行事への呼びかけ参加、小、中学校との連携） ・保育の説明責任 ・個人情報保護（情報セキュリティポリシー） ・苦情処理解決（第三者委員設置） ・情報提供 ・幼稚園、小学校との連携、保育要録の送付、保育体験の受け入れ				★主な行事		★保育時間							
保育所保育指針の8つの発達段階を前提条件にして、0～2歳児は、年齢別クラス、3～4歳児は合同クラスとする。一人ひとりの発達段階を踏まえて養護と教育が一体となった保育を展開する。		入園・進級式 / 誕生会 / 潮干狩り（浜下り） 親子遠足 / 保育参観 / 川遊び / お泊り保育 おじいちゃん・おばあちゃんとあそぶ会 / 運動会 クリスマス会 / ムーチー作り / 節分 カレーパーティー / ひなまつり / お別れ遠足 / 卒園式		通常保育：7時15分～18時15分 延長保育：18時15分～19時15分		★地域の実態に対応した事業 ○延長保育事業 ○異年齢児交流事業 ○世代間交流事業 ○子育て支援事業 ○発達支援児保育事業									
子どもの保育目標		0歳児 保健的で安全な環境、園と家庭が連携を密にしながら健康な生活リズムをつくっていく。		2歳児 保育者と安定した関わりの中で身のまわりのことを行い自分で出来る喜びを感じられるようになる。		4歳児 保育者や友だちと一緒に遊びながらつながりを広げ、集団としての行動が出来るようになる。									
		1歳児 安心できる保育者との関係のもと、自分でしようとする気持ちが芽生える。		3歳児 基本的な生活習慣を身につける。遊びや身近な経験を通して仲間との関係を育てる。											
保 育 の 内 容															
		0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児					
養 護	生命の保持	一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし生命の保持と生活の安定を図る。		保健的で安全な環境をつくり、からだの状態を細かく観察し快適に生活できるように配慮する。		基本的な生活習慣を個々に合わせて援助し、一人で出来た喜びを味わい自信が持てるようにする。		生活の流れや基本的な生活習慣を身につけられるように援助する。		身の回りのことなど自分で出来ることは自分です。自分の体調の変化に気づくようになり、運動量も増え活発になるので十分な運動が出来るよう配慮する。					
	情緒の安定	一人ひとりの子どもの状態に応じて、スキンシップを十分にとりながら、心身共に快適な状態をつくり、情緒の安定を図る。		一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。		一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。		子どもの気持ちを温かく受容し、安心して生活できるようにする。		多様な経験を通し自己肯定感を育み、自信や保育士への信頼を獲得できるようにする。					
教 育	健康	運動機能が発達し、自由に手足を使い周囲の人や物に興味をもち、探索活動を楽しむ。		自分で移動できる喜びと、身近な環境への働きかけで好奇心がより旺盛になる。		食事、排泄などの簡単な身のまわりの活動を自分でしようとする。 (幼児体操)		外あそびを十分にするなど、あそびのなかからだを動かす楽しさを味わう。 (園外活動)		楽しい雰囲気の中で友だちとかかわり、自分でできることに喜びをもちながら積極的にあそぶ。					
	人間関係	安心できる保育士とかかわりのなかで、気持ちを理解し受容されることにより、身のまわりの人や子どもに関心をもつ。		安心できる保育士の見守りのなかで、身のまわりのおとなや子どもに関心をもちかかわろうとする。		友だちとかかわってあそぶ楽しさを味わう。 集団生活の決まりや約束が理解できるようにする。		友だちとのつながりを広げ、集団で活動することを楽しむ。		集団あそびを通して、いたわりや思いやりや譲り合う気持ち、決まりの大切さに気づき守ろうとする。(交通遺児育成会へ献金を届けに行く)					
	環境	整えられた環境のもとで、年齢に合った運動機能が発揮され安全に活動できるようにする。		好きなおもちゃや遊具に興味をもったり、生活あそびを通して自由な活動を楽しむ。		身のまわりの物や、親しみのもてる小動物や植物を見たり、触れたり、保育士から話を聞いたりして、興味や関心を広げる。(野菜や花を植えて収穫し食べる)		身近な動植物に親しみをもち、世話をすることで生命の尊さに気づく。		身近な環境に興味をもち、自分からかかわり、身のまわりの事物や数、量、形などに関心をもつ。					
	言葉	保育士の語りかけを喜んだり、自分から片言でしゃべるようになり、簡単なことばの繰り返しや模倣をしたりしてあそぶ。(絵本や紙芝居の読み聞かせ)		保育士の話しかけや、発語が促されたりすることにより、ことばを使うことを楽しむ。		保育者を仲立ちとして、生活やあそびのなかでことばのやりとりを楽しむ。 日常生活に必要なことばが大体わかり、ことばで表す。		生活に必要なことばがある程度わかり、したいこと、してほしいことをことばで表す。		友だちとの会話を楽しんだり、保育士の話を親しみをもって聞いたり、さまざまなことばに興味をもつ。					
	表現	保育士と一緒に歌ったり、簡単な手あそびをしたり、からだを動かしたりしてあそぶ。		身近な音楽に親しみ、それに合わせたからだの動きを楽しむ。		保育士と一緒に動物などの模倣をしたり、経験したことを思い浮かべたりし、ごっこあそびを楽しむ。 リズムに合わせてからだを動かし、表現する楽しさを知る。		感じたことや思ったことを描いたり、歌ったり、からだを動かしたりして自由に表現しようとする。 (和太鼓)		感じたことや思ったこと、想像したことなどをさまざまな方法で自由に表現する。					
食 育	食を営む力の基礎	安定した人間関係のなかで、授乳や食事の援助をしてもらう。 一人ひとりの状態に応じて、食事の進め方を段階的に行う。 さまざまな食材の味や名前を知り、友だちの影響を受けながら楽しく食事をする。		さまざまな食品や調理形態に慣れ、楽しい雰囲気のもとで食べる楽しさを味わう。		楽しい雰囲気の中で保育士や友だちと一緒に食べる。 スプーン、茶碗、お皿などの用具を正しく使い「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶を身につける。(野菜を植えて収穫し、クッキングして食べる)		友だちと一緒に食事をし、さまざまな食べ物を食べる楽しさを味わう。 食材に興味を示し、色々なものを知る。		食べることの楽しさを知る。 食事をすることの意味がわかり、楽しんで食事や間食をとるようになる。 よく噛むことが健康につながることを知る。					
健康支援				・健康状態、発育発達状態の定期的、継続的な把握 ・年2回の嘱託医による内科健診、歯科健診 ・尿検査(年2回) 蛭虫検査(年1回) 月末に発育測定 ・異常が認められた時の適切な対応(怪我や事故も含む)				職員研修計画				・キャリアパスに基づき必要な知識、技術の習得、維持向上に努める。			
環境・衛生管理				・施設内外の設備、用具などの清掃及び消毒、安全管理及び自主点検 ・年2回の外部業者による園内外の消毒 ・調理員、乳児担当職員の検便(毎月) ・年1回の外部業者による水質検査				特色ある保育				・イエス キリストに基づく保育 ・特別講師による幼児体操・和太鼓 ・礼拝 ・園外活動			
安全対策 事故防止				・毎月の避難訓練(火災・地震・津波) ・保育園にAEDを設置 ・応急手当の方法(AED含む)や心理カウンセリング等での心のケアを学ぶ				地域の行事参加				・地域公民館等、園外での行事参加			
保護者・地域への支援				・個人面談 ・クラス懇談会 ・子育て応援デー ・実習生の受け入れ ・職場体験の受け入れ				自己評価				・年度途中や末に個人面談を行う			